

〈令和6年度 全国学力学習状況調査について〉

児童の学力や学習状況の実態把握及び教育指導の改善を目的として、今年度4月に全国学力学習状況調査を6年生にて実施いたしました。今年度は国語・算数の調査を行い、結果・分析がまとまりましたので、御報告いたします。

【国語】

- 全体として全国を下回っている。
- 記述式での問題の正答率は下がるものの、無回答率は全国に比べて低く、児童がしっかりと問題と向き合った姿勢がうかがえる。
- 知識及び技能に関しては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考力・判断力・表現力等に関しては、「書くこと」に課題が見られる。
- 解答時間が「十分ではなかった」と答えた児童が多かった。問題を読む速さに課題があると考えられる。新聞を読んでいる児童の割合も少ないため、関連がうかがえる。

【算数】

- 全体として全国の平均を下回っている。
- 記述式での無回答率及び正答率は全国平均並であり、児童がしっかりと問題に向き合った姿勢がうかがえる。
- 「図形」「変化と関係」「データの活用」に課題がある。どの項目に関しても知識及び技能、思考力・判断力・表現力等どちらにも課題が見られる。

【児童質問紙】

- 1人1台端末を有効的に活用できている。
- 「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」や「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」と感じている児童の割合が高く、本校の校内研究及び日頃の成果がうかがえる。
- 国語・算数とも「学習が好き」と答えた児童の割合が全国平均よりも高く、学習意欲が見られる。また、学習内容が「わかる」と答えた児童は9割を超えている。
- 「書く」際には文を工夫して書こうとしている様子がある。国語・算数での記述式の無回答率の低さにつながっていると思われる。
- 「生活習慣」「学習習慣」に課題が見られる。特にゲームやスマートフォンの使用時間が長く、学習時間が確保できていない。

【まとめ】

- ①国語、算数とも全国平均を下回る項目が多く、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力等へとつなげていく必要があると考えられる。
- ②問題文が長くなると、問題把握を正確にできていないということが考えられる。

【学力向上への手立て】

○基礎基本の定着

- ・児童が集中して学習に取り組むことのできるよう学習環境を整備します。
- ・学習タイムを生かし、基礎基本を身に付けます。（言葉の使い方・漢字の読み書き・計算力）
- ・読書活動の充実を図り、読む力を育成します。
- ・学習支援を丁寧に行います。
- ・家庭学習の充実を図ります。

○「書く」力の向上

- ・「書く」学習の学年の系統性を意識して授業を行います。
- ・書き方の例を示し、低学年から書く経験を積み重ねます。
- ・教育活動全体の中で自分の考えや思いを書いて表現する機会をつくれます。
- ・自分の考えを言葉にする際に、話すだけではなく、書くことにも力を入れて指導します。
- ・書く内容（問題等）を正確に把握させ、的確な内容で表現できるようにします。

○「主体的・対話的で深い学び」を基にした授業改善

- ・自分で考える時間や話し合いの場を工夫し、充実させていきます。
- ・年間指導計画を見直し、教科横断的な学習を行います。
- ・算数科では、毎時間の問題把握を丁寧に行います。
- ・学習サイクル（PDCA サイクル）を推進し、児童に学び方を教えていきます。
（自分でまとめを書く。わからないことは自分で調べる。学習を振り返る。思考する時間を確保する。）

○生活習慣・学習習慣の改善

- ・児童に学び方を教え、家庭学習に生かせるようにします。
- ・児童の実態を懇談会や個人面談を通して学校と家庭で共有していきます。
- ・ICT 教育について年間を通して教科横断的に行います。
- ・児童の実態を的確に把握し、学校保健委員会等で課題解決に向けて取り組みます。

今回の結果をよりよい教育活動へと生かしてまいります。また、家庭学習と学校教育の連携をさらに深めていきたいと考えています。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力のほど、よろしくお願い致します。